

地区名	豊川	学校名	豊川市立八南小学校	執筆者	黒田 麻由
テーマ 単元名	ふるさと「白川」を愛する地域の方と学び、探究していくなかで、 仲間と協働し、社会に参画していく児童の育成 ～４年「自然豊かな白川を愛する会の方とふれあい白川と仲良くなろう」の実践を通して～				

1 はじめに

本学級（男子１７名、女子１７名）の児童は、素直で、学習や行事に前向きに取り組むことができ、自分たちで決めた目標に対して、仲間と力を合わせて取り組むことができる。その一方で、ペア・グループの話し合いでは活発に自分の思いを伝えられるが、全体で伝えることができない児童が多い。国語科「新聞を作ろう」では、グループごとに新聞を作成した際、割り付けや内容について積極的に話し合い、活動する様子が見られた。だが、学級全体で発表を行った際には、発表して終わりとなり、感想や他グループとのつながりを伝え合う姿が見られなかった。また、児童の様子を見ているとコロナ禍に入学し、これまでの行事や協働的な学習が制限されたことで、地域の方やふるさととのかかわりが希薄になってきているように感じる。そこで、児童は自然と触れ合うことが好きなため、活動への意欲が高くなると考えられる「校区を流れる白川」の活動を通して、白川を守るために何ができるのかを考え、実践していく。そして、地域の方とのかかわりながら社会に参画したり、仲間と協働したりしてほしいと願う。さらに、白川を守り続ける「自然豊かな白川を愛する会」の方との活動を通して、その方々の白川を愛し、守ろうとする思いや生き方にふれることで、児童たちにも白川を大切にしていこうという思いをもたせたい。

本実践は、校区に流れる白川と、その白川を守る「自然豊かな白川を愛する会」を題材としている。白川はかつて農業用水として利用され、地元に住む人々にとって生活に欠かせない存在であり「命の水」とも言われていた。だが、土地利用の変化などにより、現在、白川は、農業用水としての役目が小さくなっている。また、数年前まで白川の周りにはゴミが落ちていたり、草が生い茂っていたりするなど、地域住民の白川に対する関心が低かった。そこで「自然豊かな白川を愛する会」というボランティアの方が、町をよくしようと思い、白川周辺を整備したため、人々の意識も変わった。「自然豊かな白川を愛する会」は、２０１４年に会が発足し、２０２３年時点で構成員が７０名まで増えた。この会は活動に対して、県から年に２回監査を受ける。活動範囲は市田橋から朝殿橋までである。その範囲の草木を刈る、ゴミを拾う、自生の花を手入れすることが主な活動である。この会の活動により、白川が町の人々の朝夕の散歩コースとなった。「自然豊かな白川を愛する会」の団員も増え、定期的に清掃活動が行われ、町として白川をきれいにしていこうという意識も芽生えた。白川での児童たちの活動は毎年総合的な学習の時間で行われているため、児童たちは昨年度の終わりに一つ上の学年から、白川での学習の様子を聞いている。それにより、４年生の４月には「わたしたちも白川の学習をするのが楽しみだ」という思いで、実践を始めることができる。このように児童たちが意欲的に活動できる題材であると考えた。

2 めざす子ども像

仲間と協働し、社会に参画していく児童

ふるさとを愛する地域の方と共に学ぶことで、主体的に探究していく児童

3 研究の構想

(1) 研究の仮説と手立て

仮説Ⅰ ふるさと「白川」に積極的に関わり、地域の方と活動すれば、仲間と協働し、社会に参画していくだろう。
仮説Ⅰの手立て Ⅰ-① 何度も白川にさんぽへ行き、「自然豊かな白川を愛する会」の方とふれあいながら、白川について知る機会を設ける。 Ⅰ-② ふるさとを守り続けている「自然豊かな白川を愛する会」の方と共に、子ども隊の活動を行うことで、ふるさとに関心をもち、価値を実感させる。 Ⅰ-③ 単元のゴールを「リーフレットづくり」と具体的に設定することで、「八南白川子ども隊」の活動に協働的に取り組ませる。
仮説Ⅱ 「八南白川子ども隊」として活動に取り組ませ、達成感を得られるような場を設定すれば、主体的に探究していくだろう。
仮説Ⅱの手立て Ⅱ-① 教師が活動の進捗を細かく確認し、一人一人に活動の記録を適宜とらせたり、他者に発信する場を設けたりすることで、他者からの感想や意見を聞き、自分の活動や考えを振り返ることができるようにさせる。 Ⅱ-② 「八南白川子ども隊」の活動の様子や成果を、地域の方や他学年、他学級に見せ、アドバイスをもらい、認められる場を設けることで、継続して活動に取り組むようにさせる。 Ⅱ-③ 子どもの興味関心に合わせて探究グループを分けることで、主体的に活動に取り組めるようにする。

(2) 単元構想

最終ページ（8ページ）に記載

(3) 抽出児童Aについて

抽出児（児童A）の変容を追うことで、仮説における手立ての有効性を検証する。児童Aの実態と本実践における願いは次の通りである。児童Aは総合的な学習の時間に限らず、学習や行事に、非常に意欲的に取り組める。もともと好奇心が高く、もっと学びたい、みんなと頑張りたいという思いが強く、自分の考えを積極的に伝えることができる。児童Aは学級委員を担うなど人望もあり、多くの子に分け隔てなく声をかけることができる。ただ友達との関係を深めることを苦手としており、特定の仲の良い友達との関わりの中で生活していることが気にかかる。そこで本実践を通して、他者と力を合わせて白川の活動に取り組み、よりよい活動へと試行錯誤を繰り返す中で、他者と深く関わり自己の考え方や生き方を広げていってほしい。また、まとめていく際にはリーダーとなって周囲の子に影響を与える姿を期待する。

4 研究の実際

(1) 白川との出会い（課題をもつ）【手立てⅠ-①の検証】

単元の始めは白川との出会いということで、白川へさんぽに行った。もともと白川を知っている児童も知らない児童も、自分たちが学習していく白川がどんなところなのかをたしかめに行った。そこでは、昨年度の4年生が作成した看板を見つけたり、きれいに咲いているネモフィラに関心をもったりしていた。白川を南側、北側と2回に分けてさんぽをしたことで、白川について興味をもたせることができたと感じられた（手立てⅠ-①）。

(2) 白川の生き物との出会い（課題をもつ）【手立てⅠ-②の検証】

次に、児童たちは川の中の生き物を探しに、生き物調査を行った。この活動は、ぎょぎょ

ランドの方や「自然豊かな白川を愛する会」の方に協力していただき、行うことができた（手立てⅠ―②）。児童はどんな生き物がつかまえられるか、白川に向かう前から興味を示していた。実際につかまえた魚の中に外来種がいたことをぎょぎょランドの方から聞いたときには、非常に驚いていた（資料１）。この生き物調査を通して、より白川に興味をもち、「またつかまえたという思いを強くしていた。



【資料１】白川生き物調査の様子

白川での生き物をつかまえた児童たちは、ぎょぎょランドの３０周年を記念したイベントのために、つかまえた生き物を紹介する生き物ブックを作成した。紹介する生き物は児童に選ばせ、２、３人のグループで取り組ませた。どのグループも見どころを考えながら、わかりやすいまとめになるよう心がけて絵を描いたり、文章を考えたりすることができた。

（３）「白川や自然豊かな白川を愛する会」の方と白川さんぽをしよう（考えをもつ・学び合う）

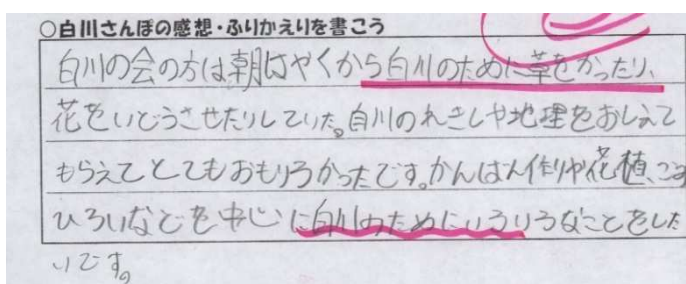
【手立てⅠ―①、手立てⅠ―②の検証】

９月には児童たちがこれからの白川の学習を自分たちの活動を自分事としてとらえられるよう、「自然豊かな白川を愛する会」の方を学校に招き、「白川学習会」を行った。この学習会では、白川の歴史や会の方の活動についてお話していただいた。その後、会の方といっしょに白川さんぽを再び行った（手立てⅠ―①）（資料２）。会の方のお話を聞きながら、さんぽをしたことで、児童Ａは「白川の会の方は朝はやくから白川のために草をかったり、花をいどうさせたりしていた。白川の歴史や地理を教えてもらってとてもおもしろかったです。看板づくりや花植え、ごみひろいなどを中心に、白川のためにいろいろなことをしたいです。」と振り返りに書いていた（資料３）。この振り返りからも、会の方といっしょに白川をさんぽしたことで、会の方の思いを受けて、自分たちの行動に生かしているという児童Ａの思いが読み取れる（手立てⅠ―②）。また他の児童も、会の方が大切に手入れしてくれているから白川がきれいだと知り、自分たちも白川のためにできることをやりたいという思いをもち始めた。



【資料２】白川さんぽの様子

【資料３】児童Ａのワークシート



（４）白川の活動に取り組もう（考えをもつ・学び合う）【手立てⅠ―②、手立てⅡ―①、手立てⅡ―②、手立てⅡ―③の検証】

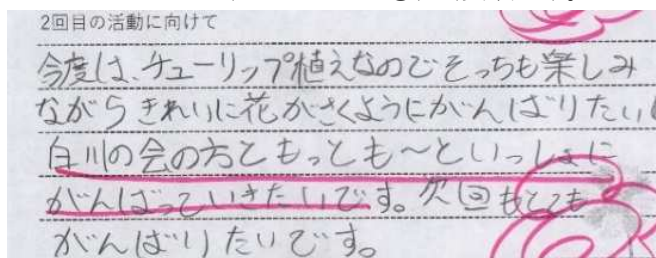
白川さんぽを終えた児童たちに、自分たちが白川のために何ができるのかを考えさせた。活動内容は「花植え」「草取り」「ゴミ拾い」の３つに指定した。児童が希望していた「看板づくり」は、「花植え」「ゴミ拾い」「草取り」といったそれぞれの活動に主体的に取り組み、活動で体験したことや白川への思いを表してほしいという思いから、今後の活動を終えてから全員で行うことにした。また、「看板づくり」を全員で行うことで、グループでの活動と全員での活動の２つを行うことができ、より白川にかかわることができる。最初は「草取り」をやりたいと決めていた児童が「白川学習会」や「白川さんぽ」を経て、「ゴミ拾い」をしたいと気持ちが変わった児童もいた（手立てⅡ―③）。活動グループを決めてからは、より主体的に取り組めるように、活動の計画を児童に考えさせた。ワークシートを作成し、活動場所、活動に必要なもの、

活動の流れ、事前に確認しておくこと、やっておくことはないかをグループで話し合わせた。実際に計画を立てさせてみると、イメージをもてるようになってきた児童も多くいた。児童Aは計画を立てるときに困ったことは、教師に質問してきた。教師もはっきりと答えられない時には、「先生、高島さんに電話して聞いてもいいですか。」と言いに来て、直接会の方に電話し、解決しようと行動していた（手立てⅠ-②）。「ネモフィラの花をハート形に植えたいのですが、可能でしょうか」「花をふまれないように柵がほしいのですがありますか」などというように、自分たちの活動を真剣にとらえて、課題を解決しようとする姿が見られた。そして確認したことはすぐさま、グループの仲間に共有し、どうしたらより効率的に活動できるのか、自分たちの思いを反映できるのかを休み時間も使って考えていた。

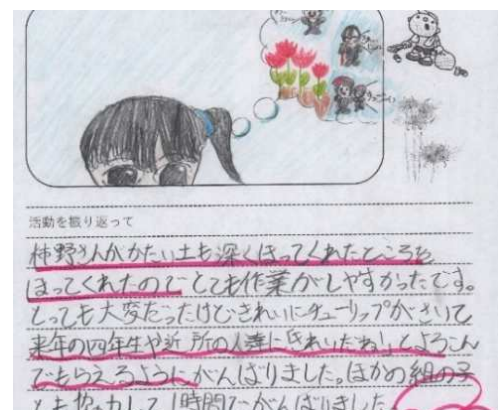
入念な計画を経て、実際に行った白川での活動では、児童たちは会の方のおかげで、計画通りに取り組めたという達成感を得ることができた（資料4）。学級で1回目の活動を振り返ったときには、児童Aは、「白川の会の方ともっといっしょにがんばっていきたい」という2回目の活動への意欲を見せていた（手立てⅡ-①）（資料5）。また、2回目の活動では、1回目の活動に比べて、作業に時間がかかり、苦勞して児童たちであったが、時間内に活動を終わられるよう、仲間と協力して集中して取り組んでいた。児童Aの振り返りでは「柿野さんがかたい土をほってくれたのでとても作業がしやすかった。ほかの組の子とも協力してがんばった。」とあり、他者とのかかわりを大切にしながら取り組んでいたとわかる（手立てⅡ-②）（資料6）。



【資料4】活動時の児童A



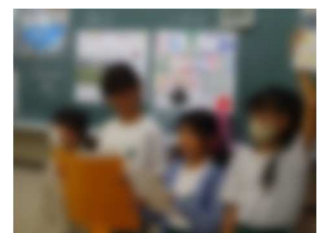
【資料5】児童Aのワークシート



【資料6】児童Aのワークシート

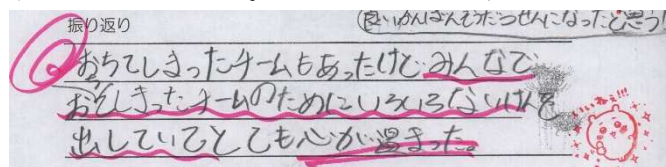
（5）看板のプレゼン発表をしよう（考えをもつ・学び合う）【手立てⅠ-②、手立てⅡ-①、手立てⅡ-②、手立てⅡ-③の検証】

白川での2回の活動を終えた児童たちは、看板作成の準備を行った。本実践では活動の思いを看板に表してほしいと思い、前年度まであった看板チームをなくした。また、児童たちが、より意欲をもって看板作成に取りかけられるように、6グループに対して5本のみ看板が立てられるという設定にした。それにより、児童たちはグループの仲間と話し合いを重ね、自分たちの看板が立てられるようにと、真剣に準備を進める姿が見られた（手立てⅡ-①）。児童Aの花植えグループは、活動時の写真選びにもこだわり、より自分たちの思いが伝わるのはどの写真なのかを話し合っていた（手立てⅡ-③）。実際のプレゼン発表では、会の方や他学級の児童にも見に来てもらい、児童たちの白川の思いを聞いていただいた（手立てⅠ-②）（手立てⅡ-②）。どのグループも白川のよさや自分が活動してきた内容を熱く語っていた。児童Aは「いろんな人に白川のよさを
知ってもらって、たくさんの人が集まる場所にしたい」という思いを伝えていた（資料7）。



【資料7】発表の様子

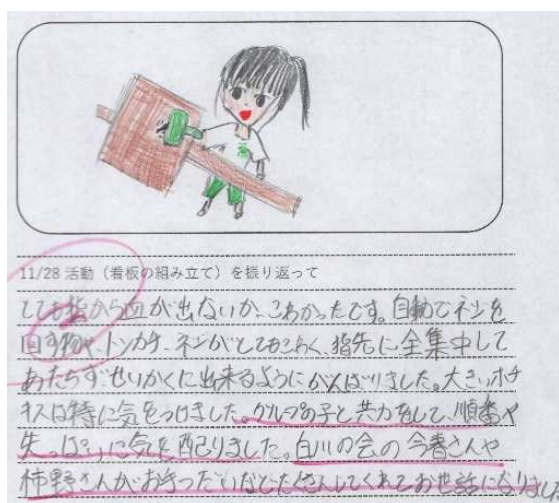
プレゼン後の投票を終えて、選ばれなかったグループの一人が泣いてしまった。だが、学級の児童たちがその子のために何ができるか、どうかしようと必死に方法を話し合う姿を見せた。プレゼン発表を聞いていた会の方が、児童の思いに応じて、もう一本看板を用意してくださることになった。泣いていた児童も、学級の他の児童も、会の方のご厚意を非常に喜んでいった。それだけでなく、児童たちはこのプレゼンを通して自分たちが懸命に準備をしてきたことや、白川への思いが会の方に伝わったと実感することができた。このことから児童たちは主体的に探究し協働的な学びをしていたといえる。児童Aの看板プレゼン後の振り返りから、学級で話し合ったことなど他者とのかかわりを意識していることが読み取れる（資料8）。



【資料8】児童Aのワークシート

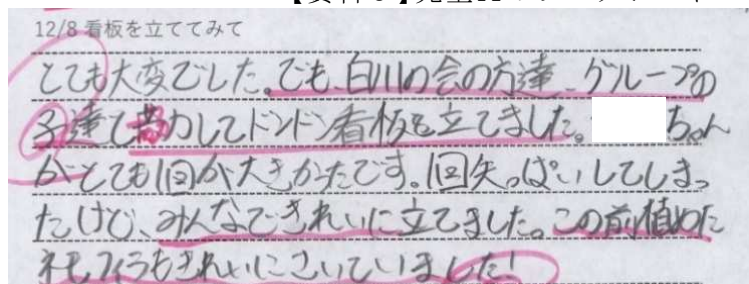
（6）白川に看板を立てよう（考えをもつ・学び合う）【手立てⅠ—②、手立てⅡ—③の検証】

看板プレゼンの後、看板を組み立てるため、再度会の方に学校に来ていただいた。会の方がわかりやすくコツを教えてください、児童たちも初めての体験に胸を躍らせていた（手立てⅠ—②）。看板を組み立てたときの児童Aの振り返りでは、「白川の会の今春さんや柿野さんがお手伝いをたくさんしてくれてお世話になりました。」と会の方の協力に感謝の思いをもっていることが読み取れる



【資料9】児童Aのワークシート

（資料9）。児童たちはこれまで、生き物調査、白川さんぽ、八南白川子ども隊の活動、看板プレゼン発表、看板組み立てなど、多くの活動を通して会の方と繰り返しかわったことで、活動に対し、ますます主体的になっていった（手立てⅡ—③）。また、他者とのかかわりの中で自分たちの白川への思いを強くしていた（手立てⅠ—②）。



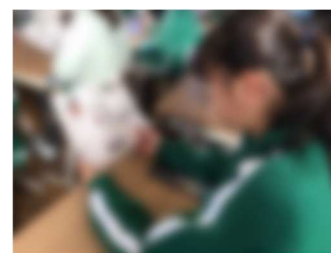
そして組み立てた看板を立てに12月に白川へ行った。実際に看板を設置したときには、会の方やグループの子と協力してやり遂げられたことに喜びを感じていた。多くの活動を行ったことで、児童たちは「自分たちでやった」という大きな達成感を得られたように感じられた（資料10）。

【資料10】児童Aのワークシート

（7）リーフレットを作ろう（振り返る）【手立てⅠ—③の検証】

これまでの活動を終えた児童たちはより白川のことを知ってもらうために、白川を守るためにリーフレットづくりを行うことにした。リーフレットを作成することはあらかじめ伝えていたため、2学期から学級で集めていたリーフレットや国語科のリーフレットづくりの学習を生かして、リーフレットづくりのイメージを共有することができた（手立てⅠ—③）。リーフレットに何を書いたらよいかを学級で話し合ったときには、児童たちが「白川の魅力をつめこみたい」「自分たちの活動をみんなに知ってほしい」「白川のマップを書いてみたい」など自分の思いを素直に発信する姿が見られた。自分たちで一から作るリーフレットであったため、どの児

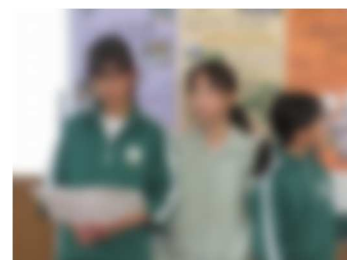
童も主体的に取りかかり、同じページを担当する児童たちと協力することができていた（手立てⅠ―③）。全6ページあるリーフレットのすべてのレイアウト、内容を考えて作成したため、できあがったリーフレットを手にとったときには、児童たちは満面の笑みを浮かべていた（資料11）。この様子からも、リーフレットづくりの活動が児童にとって、意味のある活動だったと考えられる。



【資料11】リーフレットを真剣に見る児童A

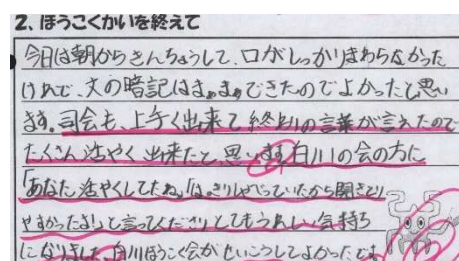
（8）白川報告会で3年生に伝えよう（振り返る）【手立てⅠ―②、手立てⅡ―②の検証】

リーフレットづくりのみでは、白川を守ることができないと考えた児童たちは、3年生に白川報告会という場で自分たちの活動や白川への思いを伝えることにした。報告会には会の方も招き、自分たちの活動や、会の方との関わりを3年生、会の方に伝えた（手立てⅠ―②）。その中でも児童Aはこれまで1年間お世話になった会の方への感謝の気持ちをその場で述べていた（資料12）。また、児童が作成したリーフレットを会の方や3年生にも渡し、自分たち



【資料12】発表の様子

の成果を見てもらうことができた（手立てⅡ―②）。報告会を終えた後の児童Aの振り返りでは、「白川の会の方に、『あなた活躍していたね。はっきりしゃべっていたから聞き取りやすかったよ』と言ってもらえて、とてもうれしい気持ちになりました。白川報告会が成功してよかったです。」と書いてあった（資料13）。この振り返りからも、会の方とのこれまでのつながりがあったからこそ、児童Aが主体的に報告会に取り組むことができ、達成感を得られたのだと考えられる。



【資料13】児童Aのワークシート

5 成果と課題

（1）仮説Ⅰについて

- 「自然豊かな白川を愛する会」の方と継続して活動に取り組んだことで、児童が白川への思いをもち、白川報告会やリーフレットづくりに表して他者に伝えることができた。
- ふるさとを守り続けている「自然豊かな白川を愛する会」の方との活動により、児童もふるさとへの思いをもち、白川に実際に足を運んで自分たちが作成した看板を見に行ったり、花を植えたことなどを自ら友達に話したりするなどの主体的な姿が見られた。
- 子ども隊の活動の様子や成果を伝えることを優先してしまったことで、他学年への伝え方や、白川とのかかわり方などへの追求が不十分なところもあった。

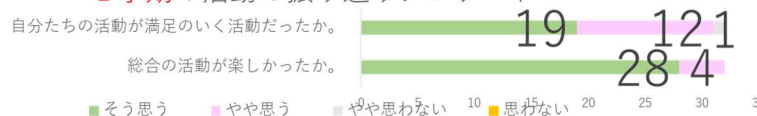
（2）仮説Ⅱについて

- 児童たちが、実際に白川さんぽを通して、課題を見つけたことで、活動に対する意欲の高さが感じられた。
- 活動を行う前の、グループでの話し合いが授業時間内で終わられなかったときには、休み時間にもグループで集まり、計画を練るなど主体的・協働的な姿が見られた。
- 活動一つ一つの進捗状況を教師が把握し、他者、学級で共有させたことで、自分たちの活動だけでなく、他者の活動にも目を向けて、生かすことができた。
- 単元のゴールをリーフレットづくりと具体的に設定したことで、それまでの活動を進めていく中でも、リーフレットに興味をもち、みずからリーフレットを集める姿が見られた。また、自分たちでリーフレットという形あるものを作り上げたという達成感を味わわせ、活動に対

○白川報告会という場を設け、1年間の活動を下学年の3年生や、活動を共にした「自然豊かな白川を愛する会」の方に伝えた。そこで、活動に対するレスポンスをもらえるようにしたため、児童たちは自身の活動が認められるよう、主体的に取り組むことができた。

(3) アンケートについて

1 学期の活動の振り返りアンケート



【資料 1 4】学期末アンケート結果

2 学期の活動の振り返りアンケート



【資料 16】 学期末アンケート結果

3学期（1年間）の活動の振り返りアンケート



【資料 18】 学期末アンケート結果

【資料 19】児童 A のワークシート

④ 1 学期の活動の感想を書こう

白川散歩、生き物調査、生き物まとめはとてもおもしろくて、また3月でより白川のことも知りたいです。

【資料 15】 児童Aのワークシート

2. そう思う やや思う やや思わない 思わない -3点10%
 - 2ヶ月して自分やっとしてくやめた。また悩むかもあるけど
 - 花のリーフを植えるとき足がつかなくて
 95/100 - ややいい
 ③ 2学期の活動の感想を書こう

[illegible]

【資料 17】児童 A のワークシート

③ 1年間の活動の感想を書こう。決めたこと

1年間お逢ひが運動が今に出たのは本当に自川の
会の方のおかげで運動がなりました。と思います。
9月〜初までとしもつ中して行い3月。運動で
は体がわりつて来りて。人にたつたて楽しいの方が
やがて持たれ。強くなり。会の方で話しながらいた時
裏話も知らず学ばせてくれた。道具もたけ
くわした運動がなりました。人々。1〜2年
くわした時間がある。お逢ひです。

6 おわりに

豊川 7

単元構想

	授業案のU・D化について 見える化 掲示物などによる視覚支援や実物を見せる支援 意欲化 学習・活動に意欲をもてるような支援 共有化 考えを他者と伝え合い、自身の考えを深めるための支援 そろえる化 学習の素地をそろえ、全員が同じように活動するための支援
課題をもつ	4年生（現在の5年生）の発表を見る（2） 白川との出会い（5） ○4年生の報告会で覚えていることを発表する① ○白川さんぽ（南側）へ行く② ○白川さんぽ（北側）へ行く② 白川の生き物との出会い（10） ○生き物調査を行う② 〈理科「季節と生物2春」の学習〉 ○水について学習する② 〈社会科「水はどこから」の学習〉 ○生き物まとめを行う⑥
考えをもつ・学び合う	自然豊かな白川を愛する会の人といっしょに白川さんぽをしよう（6） ○会の方から白川について教わる② ○白川さんぽをして気づいたことを伝える④ 白川をもっとみんなが集まる、愛される川にしよう 自然豊かな白川を愛する会子ども隊をつくろう（2） ○学級会で子ども隊結成について話し合う② 活動計画を考えよう（2） ○活動内容を話し合い、グループごとに計画を立てる② グループで活動を進めよう（15） 【川をきれいにしよう】 (ゴミ拾い) 【川をきれいにしよう】 (草取り) 【自然豊かな白川を作ろう】(花植え) ↓ 白川のために頑張って活動したから、ぼくたちの思いを看板で伝えたいな みんなで看板をたてよう（10） ○プレゼンを作って看板選びをしよう⑤ ○看板を立てる⑤ 1つのマップにまとめよう（15） ○白川の学習をリーフレットにまとめる⑩ 〈国語科「ふるさとのお話を伝えよう」の学習〉 ○他学年や地域の方に白川の学習で学んだことを伝える⑤
振り返る	白川や私たちのふるさとをこれからも大切にしていきたいな

授業案のくゝは他教科とかかわりのある単元

- ◎評価 □U・D化を意識した支援
- （研究の仮説に関わる手立て）
- 「自然豊かな白川を愛する会」の方やぎょぎょランドの方と生き物調査をすることで、子どもたちが安心して生き物をつかまえ、生き物について詳しく知ることができる。
- 〈そろえる化〉（手立てⅠ-②）
- 活動内容を壁面に掲示することで活動の流れをわかりやすくする。 〈見える化〉
- 単元のまとめとしてリーフレット作りを伝えることで、活動の見通しをもてるようにする。
- 〈そろえる化〉（手立てⅠ-③）
- 何年も白川を守ってきた「自然豊かな白川を愛する会」の方のお話を聞くことで、白川の大切さを実感し、活動への意欲をもたせる。
- 〈意欲化〉（手立てⅠ-②）
- 「自然豊かな白川を愛する会」の方と白川さんぽを行い、子どもたちと触れ合う場を設けることで、白川への関心をもたせる。
- 〈意欲化〉（手立てⅠ-①）
- 子どもの興味関心に合わせて活動グループを分けることで、主体的に取り組めるようにする。
- 〈意欲化〉（手立てⅡ-③）
- 活動の最中に、中間報告を行うことで、活動の進捗を確認したり、活動方法を見直す機会とする。
- 〈共有化〉（手立てⅡ-②）
- 6グループに対して、看板が5本しか立てられない設定にし、プレゼンを行い看板選びをすることで、活動への思いをこめた看板を考えさせる。
- 〈意欲化〉
- 「自然豊かな白川を愛する会」の方と看板設置を行うことで、白川を大切にしていきたいという思いを形として表すことができる。
- 〈見える化〉（手立てⅠ-②）
- 白川の学習について3年生や「自然豊かな白川を愛する会」の方に伝え、3年生や会の方からレスポンスをもらうことで、活動の達成感を得られるようにする。
- 〈意欲化〉（手立てⅡ-②）
- 単元を通して、一人一人に活動の記録を細くとりとらせることで、自身の考えを振り返り変容を見ることができるようになる。
- 〈見える化〉（手立てⅡ-①）
- ◎白川の活動を通して、学んだことを相手が興味をもつように、分かりやすくパンフレットにまとめ、他学年に向けて発表することができたか。
- ◎白川さんぽを通して、白川のためにできることを自ら見つけ、仲間とともに、「自然豊かな白川を愛する会」の方が守ってきた白川をどのようにして守るのかを考え、行動することができたか。
- ◎活動を通して、白川や「自然豊かな白川を愛する会」の方に思いをもち、白川を訪れる人の心を揺さぶる看板を作ろうと考え、行動することができたか。